

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 8月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	2670100078
法人名	社会福祉法人 七野会
事業所名	グループホームはつね
所在地	京都市北区小山初音町24 カマラーダ・ドーモ1階 (電 話) 075-494-3022

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	大阪市北区天満橋2丁目北1番21号		
訪問調査日	平成19年7月12日	評価確定日	平成19年9月14日

【情報提供票より】(平成19年6月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成	11年	7月	1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8	人	
職員数	8 人	常勤	6 人, 非常勤	2 人, 常勤換算	6.9 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	地下1階付き3階建ての 地下1階	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(600,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要(6月11日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名	
要介護1	1 名	要介護2	2 名			
要介護3	2 名	要介護4	2 名			
要介護5	1 名	要支援2	名			
年齢	平均	85 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上京病院 ・かも川診療所
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

駅から近く、大型店舗や商店街、公園が近くにあり便利な環境に立地しており、コーポラティブマンションの1階にグループホームがあり、2階が認知症デイサービスとなっています。ホーム内は限られたスペースを上手く利用してとても居心地の良い空間づくりがなされています。「その人らしく、地域とともに」というホーム独自の理念の基、センター方式を使用して入居者の把握に努められ、ホーム内では役割を上手く見出しながら日常生活を支援したり、外出などの個別ケアや希望にそった夜間入浴の実施がされており、地域へも小学校の運動会に参加したり、地藏盆や公園掃除のお手伝いなどが支援されています。笑い声の断えないこのホームでは、入居者と職員が一緒過ごしながら支え合い、学べる関係づくりが実現出来ています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で指摘のあった点については職員間で話し合い、改善されています。研修については計画を立てて、さらに段階に応じた研修が設けられ積極的な参加がされています。その他センター方式を導入した事により一人ひとりの把握に努めながらケアに活かされています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は項目の意義を理解しながら、前回の項目と照らし合わせてグループホームに求められている事を話し合われています。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>約2ヶ月に1回実施されている運営推進会議では、地域包括センター長、町内会会長、家族が参加されておりグループホームの特徴から話をして理解を得ています。情報交換を行なったりより良い場となっているがおおむね報告会となっています。今後さらにより良い会議にするためにも行政の方への参加をお願いする事や、会議の中で質問、意見、要望を受けながら双方向的な会議が期待されます。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>法人にて第三者委員による苦情受付があり、案内をしています。また家族がホームに来られた際になるべく意見を聞き出すように意識されており、玄関にも苦情箱を設置して気軽に相談出来る仕組みがとられています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>コーポラティブマンションの一員という事もあり住人との会議、親睦会、その他行事にて1つのコミュニティー活動があり、交流出来る場が設けられています。その他、商店街の賛助会や町内会へも参加されています。また、月に1度デイサービスを利用し、地域高齢者の集まる「ふれあいサロン」を実施しています。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念、運営方針とは別にグループホーム独自の「その人らしく、地域とともに」という理念が掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者自筆の理念をリビングの見やすいところに、誰にでも見やすいかたちで掲げており、管理者は会議の際に職員に理念に立ち戻り話をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会、地藏盆、公園の掃除などに参加している。コーポラティブマンションの住人との親睦会をホームで開催したり、行事を一緒に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、求められている事について職員と話合っている。前回の改善点についても検討し、実践している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センター長、町内会会長、家族が参加されている会議ではグループホームの特徴から話を理解し得ている。情報交換を行なったりより良い場となっているがおおむね報告会となっている。	○	会議の議事録を行政に提出し、内容の報告をされています。今後行政の方への参加をお願いする事や、会議の中で質問、意見、要望を受け双方向的な会議が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年度事業報告を行ったり、電話にて相談したりしている。また、管理者が地域の学習会の講師を引受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族には電話や訪問時に暮らしぶりや健康状態について報告をしている。毎月金銭報告の際、手紙にて近況報告や行事の案内を一緒にしている。また、年4回程度季刊誌を発行して職員紹介をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体により第三者委員を設けている。また玄関に苦情箱を設置して気軽に相談出来る仕組みがとられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が対応する事が重要と考えられているが、法人内での異動がある場合には引継ぎ期間を十分に設けて自然なかたちで交代することに配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、初年度、2年、3年、中堅、役責者など段階に応じた研修が設けられている。また、各職員がどんな研修を受けたいかの希望を聞き、外部研修にも可能な限り参加し、参加後は報告書を作成して、会議でレジュメも配付して報告をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都、全国のグループホーム協議会や宅老所ネットワークでの勉強会や会議への参加を通してサービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームの2階にある認知症デイサービスの利用からの入居や、近所からも入居されている。また、見学の機会も設け、自然に馴染めるように職員は配慮し、対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である入居者に調理方法やしきたり、生活習慣など一緒に過ごしながらか職員は学んでいる。また、悩みを聴いて頂いたり、一緒に笑ったり支え合う関係づくりがされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使用し、情報収集をして生活のためのアセスメントを実施している。意向の把握に努め、職員間でも月に1度話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	長期目標を掲げ、それを達成するための短期目標を記載した個人別のケアプランを作成している。本人、家族の要望についてもケアプランに明記している。また、月に1回話し合いの機会を設け、説明をし了承を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1度カンファレンスを実施し、職員間で話合っている。家族へは面会時に状況について相談している。ケアプランは3ヶ月に1回見直されている。ターミナル時は月1回のモニタリングを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ふるさと参り、嗜好品を楽しむための個別外出、通院介助など個々の満足を高めるように支援されている。また、ターミナルケアも実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談して、馴染みの医師にかかっている。提携医において居宅療養管理指導を受けており、2週間に1回医師が来られる。また、デイサービスの看護師による週2回の健康管理を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に希望を必ず確認し、ターミナルの指針について同意を得ている。24時間対応可能な医師と連携して、ターミナルケアをされている。また、家族の思いを折に触れて確認し、職員間で共有してケアにあたっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	基本的に丁寧語で話をしているが、場面場面での言葉掛けに配慮している。個人情報については管理徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく本人のペースを大切にして、くずさないように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は選択方式で希望を聞き、食材の買物と一緒に رفتり、調理や後片付けを一緒に行ない活動のひとつとしている。一人一人の嗜好を職員が把握している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	これまでの生活習慣や希望に合わせて毎日の入浴や夜間入浴が支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式にてこれまでの経験を把握しながら支援している。掃除や食事づくりを通して力を発揮してもらっている。また、個別外出にて入居者と相談しながら楽しみを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別でふるさと訪問を企画したり、公園への散歩やスーパーへの買物、1泊旅行を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町内会の訓練への参加や半年に1度ホームでも消防団の協力を得て訓練を実施している。コーポ会議にて手順を話し合っており、救助のお願いをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた献立を考えて、月に1度栄養士にチェックをしてもらいアドバイスを受けている。摂取量については必要な場合に記録をしている。水分補給についても出来るだけ飲む機会をつくっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、照明を工夫したり、限られたスペースの中で上手く空間づくりがされており、木のぬくもりを感じながら居るだけでほっとできる居心地の良いスペースとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みの家具やテレビ、置きものなどの持ち込みが自由であり、安心して過ごせる空間づくりがされている。		